

志有るの士は利刃の如し。百邪辟易す。志無きの士は鈍刀の如し。童蒙も侮翫す。少年の時は当に老成の工夫を著すべし。老成の時は当に少年の志気を存すべし。人の言は須らく容れて之を扱ふべし。拒む可からず。又惑う可からず。心の形わるる所は、尤も言と色とに在り。言を察して色を觀れば、賢不肖、人瘦す能わず。人の賢否は、初めて見る時に於て之を相するに、多く謬らず。

【大体の意味内容】

志のある人は鋭利な刃のようなもので、幾百もの邪悪な怪物どももたじろいでしま  
う。なにもしようとする意志がない人は、なまくら刀のようなもので、子どもまでが馬鹿  
にする。若い時は、経験を積んだ人がよくよく考え、行動するときには思わぬことに当たっ  
ても慌て騒がず落ち着いて対処するよう、老成の工夫をすべきである。年を取ってからは、  
若者のような漲る意志と、ギラギラした気力とを失わないよう、自分を鼓舞すべきだ。  
他人の意見は、まずは全面的に聞き入れてから、吟味して取捨選択すべきである。最初か  
ら聞く耳を持たず軽率に否定するべきではない。また聞き入れた意見をすべて真に受けて、  
迷ったりブレたりしてもいけない、腹に収めてよく評価してみる。人の心が外形に現  
れるところは、ことばと顔色である。ことばの音色に、その人の心の琴線の鳴り方が現  
れ、ことばづかいに本当の態度が現れる。そうして顔つきの品格を觀れば、賢く気品の  
高いものか、それとも愚かで下劣な者であるかハッキリと出て、隠すことはできない。だ

いたい、人が賢き方か、そうでないかは、初めて会った時に直感した第一印象で真相をつかめるもので、多くの場合それに間違いはない。

昔の武家の女性は必ず懐に短刀を忍ばせていて、自分が辱めを受けそうときはそれで自分のものを切って死ぬ覚悟を持っていたか。現代でそんなことをされては困りますが、自分の生き方に何らかの志を持ち、心に刃をもって生きる、というのなら、凛とした感じでカッコいいし、美しいと思います。

「志」といっても、鬼に取り憑かれた妹を救うとかいう勇氣に満ちたものばかりでなく、例えば「みんなの人気者になりたい」といったことでもよいでしょう。ある学校へ入りたいという「志望」も、立派な「志」です。入学試験という「試験」があるのも、その志を果たすための通過儀礼です。巷で評判の『鬼滅の刃』のアニメ、少しだけ見てみました。主人公竈門炭治郎が志を果たすために様々な試練を乗り越えてゆく旅は、物語世界の中だけの話ではなく、実はみなさんが生きていく人生の過程そのものを暗示しています。退治される「鬼」の側にも、悲しい過去があったり、生き方をどう選ぶかで致命的な状況に陥ってしまうことがあるのもきちんと描かれています。こうした物語を楽しみながら、自分の生き方についても、思いを巡らせてみましょう。

